☆神の母聖マリア（１月１日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（民数記　６章 22-27 節）

主はモーセに仰せになった。アロンとその子らに言いなさい。
あなたたちはイスラエルの人々を祝福して、次のように言いなさい。
主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。
彼らがわたしの名をイスラエルの人々の上に置くとき、わたしは彼らを祝福するであろう。

第二朗読（使徒パウロのガラテヤの教会への手紙 ４章 4-7 節）

皆さん、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

福音朗読（ルカよる福音　2章 16-21節）

羊飼いたちは急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。
八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。
これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　新年明けましておめでとうございます。新しい年の初めに「神の母聖マリア」の祭日が祝われます。私たちの新しい生活がマリア様と共に始まり、歩めるようにとの配慮でしょう。

　さて、コロナ感染症の広がりから早くも四年目に入ろうとしています。まだまだ収束の気配は見られませんが、少なくとも極端に恐れる必要は無くなったように思います。主日のミサも新しい式次第にまだ少し手こずってはいますが、以前のように歌うこともできるようになりました。今年は少しずつではありますが、教会の諸活動も前向きに取り組んでいければと思います。

第一朗読（民数記　6 章 22-27 節）

　モーセとアロンを通してイスラエルの民に与えられた神の祝福の言葉が述べられています。祝福は神の恵みを祈り求める動作、言葉です。この時にはきっとイスラエルの民に向かって手を伸べて祝福の言葉を叫んだことでしょう。私たちも誰かのために祈りを捧げ、恵みを願うときに、それは神の祝福を願うことなのです。私たちのミサの中でもこの祝福を願う祈りはたびたび繰り返されています。例えば、「主は皆さんとともに・・」という司祭の言葉は、「皆さんの上に主の祝福、恵みがありますように」という祝福を願う祈りですし、それへの返答として会衆は「またあなたとともに主の祝福、恵みがありますように」と祈っているのです。

第二朗読（使徒パウロのガラテヤの教会への手紙 4 章 4-7 節）

　使徒パウロは救いの歴史の始まりとして父なる神は人間の女から独り子が生まれるようになさったと記しています。そしてその理由として罪の奴隷の中にいる私たちを贖い出すためだとしています。パウロはイエスの母親・マリアをどのように思っていたのでしょうか。使徒ヨハネがマリアを自分の家に引き取ってそのお世話をしていた事実は知っていたでしょう。使徒パウロの手紙に

はマリアのことは何一つ出てきませんが、パウロの中ではマリアはイエスをお産みになった母としてきっと、尊敬の心で考えていたことでしょう。

福音朗読（ルカよる福音　2章　16-21節）

今日の福音は救い主の誕生を天使たちから告げられた羊飼いたちが、ベツレヘムで幼子とその両親を探し当て、天使たちから告げられたことがみな本当だったと話し合っていた様子を記しています。その話を母マリアは耳にして不思議に思ったとあります。イエスの母つまり救い主なる神の母となったマリアの姿がそこにありました。マリアはイエスが天に昇られた後イエスの母としてエルサレム教会の信徒の皆さんをきっと優しく包んでくれていたことでしょう。また神の母としての称号は父なる神の人類に対する限りない愛の表現にも思えます。父なる神の人類に対する愛は私たちの考えをはるかに超えた神秘です。被造物である一人の女から神である方がお生まれになるといったことは私たち人間が考えることすらできない神秘なのです。この神の母マリアの祭日が私たちに告げていることは神の愛は今もいつも私たち人間に注がれているという事実です。この神の愛が今年もまた私たちに注がれていることを信じ喜びのうちにこの一年を始めましょう。

富士の聖母はこの富士山の二合目にあります(2022 年 1 月)

P.S.

この困難な時代を信仰の喜びをもって前向きに生きていきましょう。
神の母マリア様が私たちを見守っていてくださいます。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光